

令和元年度向殿 SWG 検討テーマと進め方（案）

1. 検討テーマ

危険源（ハザード）の特定方法の調査

前回の本 SWG で次の検討テーマとして「ハザードの特定」と「リスク低減措置」の 2 点についてご議論をいただいた。

その後、向殿先生と事務局の打合せで次のようなご意見があった。

- ① ISO12100 では機械の設計段階で、設計者が危険源を見つける方法について定められている。
- ② 現実には、設置者、現場の労働者も危険源を見つけることがある。危険源を見つける方法は職位や事業場によって様々である。
- ③ ISO12100 の危険源リストでは、作業における危険源については詳細に取り上げられていない。
- ④ 次のテーマは現場を重視した危険源の特定とし、各事業場が実践されている方法を取りまとめ、共通的な手法を策定について検討してはどうか。また、厚生労働省のリスクアセスメント指針でも危険源の特定方法は詳細には記載されていない。以上のことから、次の検討テーマを「危険源の特定」としたい。

2. 進め方

- (1) 各団体の事業場より、リスクアセスメントに関する規程類を事務局にご提出いただく。事業場への依頼文書案は事務局が作成する。
- (2) ご提出いただいた規程類から危険源の特定方法を抜粋し、まとめる。
- (3) 危険源の特定方法を共通化できないか検討する。